

フランスハンドボールにおける小学生年代の選手育成活動

：専門家に対するインタビュー調査を通して

藤原 ひなた (202111509、ハンドボールコーチング論)

指導教員：山田 永子、會田 宏、藤本 元

キーワード： マネジメント、育成方針、トレーニング方針、指導方針

【目的】

本研究では、フランスの小学生年代における選手育成について、コーチング現場で実際に行われているコーチング方法や配慮を明らかにすることで、日本のハンドボールにおける小学生年代の選手育成に対して有用な知見を得ることを目的とする。

【方法】

1. 研究対象者

長年にわたりユース育成に携わってきた選手育成の専門家であり、フランス国内でも選手育成に力を入れているクラブの1つであるモンペリエでのコーチ経験を有する、デイビット・ドゥグイ (David Degouy) 氏を対象とした。

2. 調査方法

インタビュー調査およびアンケート調査を用いた。インタビュー調査は、zoomを用いたオンライン会議で、2回に分けて行った。調査後、発言内容を全て文字に起こし、語りの内容を作成した。ここまで手手続きは全て英語で行った。そして、その語りの内容を日本語へ翻訳し、解釈した。その後、質問項目によるアンケート調査をメールで実施し、英語で回答を得た。最後に、インタビュー調査とアンケート調査の回答を合わせ、見出しを付けてまとめた。

【結果と考察】

() 内は本研究者の補足を示す。

1. マネジメント

ゴールサイズについて、「U-9は、1.7m×2.4mのゴールを使用しています。」、U-12では「1.8m×3mのサイズに（高さを低く）調整しています。」という語りと、ボールサイズについて、「U-9は00号、U-12は0号です。」という語りから、子ども達がシュートを打ちやすいようにゴールやボールを子ども用にサイズダウンする工夫をしていることが理解できる。また、小さく柔らかいボールを用いることで、子ども達がゴールキーパーをプレーするときに、恐怖心を持たずに、積極的にゴールキーパーに挑戦できるようをしていると考えられる。

2. 育成方針

「U-9のディフェンスシステムは、マンツーマンディフェンスです。」、「U-11とU-12（の試合では、

3ピリオド実施します。1ピリオド目では、オールコートのマンツーマンディフェンス、2ピリオド目では、ハーフコートのマンツーマンディフェンスでプレーします。」という語りから、マンツーマンディフェンスを採用することで、U-9およびU-12の子ども達に、ディフェンダーとしての責任を持たせることや、オフェンスからディフェンスへ素早く切り替えることを身につけさせることを目指していると考えられる。

3. トレーニング方針

「子ども達にとって最も重要なことは、遊ぶことと、毎回笑顔でいることだと考えています。」という語りから、U-9では、試合を実施しているものの、勝敗よりも、楽しくハンドボールをプレーさせたいと考えていることが理解できる。

「練習では、運動量を重視しています。」、「毎回、動きながらボールをキャッチし、動きながらパスをさせたいのです。」、「フランスでは、パスだけのトレーニングは行いません。パスはしますが、（同時に、）ゲームもします。」という語りから、モンペリエでは、細かくスキルやテクニックの指導をするのではなく、ゲームの中で動きながら、それらを身につけさせようとしていると考えられる。

4. 指導方針

「試合前、私たちは前向きな行動についてのみ話し、試合をスタートさせます。」や、「負けた後は、まず、前向きな行動を分析し、次に、何かを学んだ時は負けではないことを伝えます。」という語りから、試合での指導は、後ろ向きな発言を避け、前向きな発言をするようにしていることがうかがえる。

【結論】

フランスにおける小学生年代の選手育成は、カテゴリーを細かく分けて、そのカテゴリーの選手のレベルにあったコーチングや配慮をしていることが明らかとなった。また、トレーニングに「遊び」の要素を取り入れたり、多様なルールを取り入れたゲームを行ったりすることや、コーチの前向きな指導行動によって、子ども達のモチベーションを維持し、楽しくスキル習得させることも示唆された。